

えんげ

嚥下障害について

日南町では、「鳥取大学・日南町連携事業 地域貢献支援事業（地域課題研究）」において、『嚥下検診における高齢者の嚥下障害スクリーニング』という事業を平成27～29年度の3年間行ってきました。4月号では、この取り組みについて報告をさせていただきました。

今回は、嚥下検診とも関係のある「嚥下障害」について、お伝えします。

【お問い合わせ】日南病院：82-1235



保健現場 レポート

日南病院 耳鼻咽喉科

(鳥取大学医学部附属病院
耳鼻咽喉・頭頸部外科)

医師 藤原 和典 **364**

鳥取大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の藤原です。4月号では、日南町における嚥下検診により、嚥下障害を持った方を多く認めたことをお伝えいたしました。今回は、嚥下障害についてお話ししたいと思います。

【嚥下障害とは】

通常、人間は、目で食物を認識し、口へ運び、咀嚼（食物をかみ砕くこと）して、飲み込みます。これが嚥下であり、この飲み込みがうまくできない状態を嚥下障害と呼びます。

のどは、呼吸と食物の通り道の交差点であるため、この部位に障害や機能低下が生じると、食物や唾液が誤って気管や肺にたれ込みます。これを誤嚥（ごえん）とよび、食事がとれなくなるばかりではなく、肺炎の原因となります。

【嚥下障害の原因】

嚥下障害の原因としては、脳の病気（脳出血や脳梗塞など）、肺の病気、のどの病気に加え、高齢による機能低下も大きな要因です。特に、高齢者の肺炎の原因の多くが、この誤嚥による肺炎（誤嚥性肺炎）であり、命に関わることもあります。年齢を重ねることや、

病気療養などによる体力の低下によって、のどの筋力や感覚の低下、呼吸筋の低下などが生じることにあります。

【嚥下障害の症状と治療法】

嚥下障害の早期の症状としては、のどのつまり、むせなどがあり、進行すれば、肺炎だけでなく、窒息、栄養失調、脱水を起こします。外来患者さんの中に、食後によく咳が出るという症状を止めて欲しいという訴えで受診される方がおられますが、その中に軽度の嚥下障害を起こしておられる方を診ます。しかし、この場合、咳は肺炎予防にとって重要であるため、咳を止めるのではなく、まずとろみをつけるなど飲み込みやすい食品を選んだり、口腔ケアを行うなどの保存的対応を行うことが重要です。さらに重症になると、手術治療により嚥下機能を回復させることが可能です。



いつまでも、美味しい食事を口から食べることができるよう、嚥下障害の知識や予防意識を持つことはもちろん、治療法について少しでも知っていたら、と考えると、嚥下障害を疑う症状があつたり、繰り返す肺炎や食事が思うように食べられないなどの症状があれば、耳鼻咽喉科にご相談ください。

令和初

住民検診が始まります!!

6月13日から住民検診が始まります。職場の健康診断でがん検診を受ける機会がない方もぜひ住民検診をご利用ください!

詳しい日程や内容は、町報5月号と一緒にお配りしたチラシをご覧ください。

★お知らせ★

これから毎月、住民検診のお知らせや受診状況の速報値など、この保健現場レポートでみなさんにお伝えしていきます。

住民検診に関するお問い合わせは、
役場住民課:Tel82-1112・福祉保健課:Tel82-0374まで

